

2023 年度 G T セミナー 第 57 回保育環境セミナー 子ども同士の関わり・異年齢編②

第334号 2023年7月24日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社ガガヤ 奥山卓矢

子ども同士の関わり・異年齢編②

2023年7月10日～12日に「第57回保育環境セミナー」
(子ども同士の関わり・異年齢編)を開催しました。

オフライン参加は約150名、オンライン参加は60施設を超える
お申し込みを頂きました。今回は、藤森代表から「子ども同士の関
わり・異年齢」について考え方をお示し頂きました。

本誌含め、4回に分けてお送りする第2弾です。

【セミナー開催趣旨】

「見守る保育 藤森メソッド®」の提唱者 藤森平司先生は自身の実
践から今の保育形態を構築しました。その実践のポイントは「子ど
も同士」「異年齢」「子ども主体」「チーム保育」の4つです。

「見守る保育」という言葉はいろいろなところで一人歩きしてしま
い、勘違いされることがあります。

そこで提唱者である藤森先生の名前を使用することで、しっかりと
した理念とエビデンス、そして4つの重要ポイントを実践すること
で差別化を図りました。

また実践園は根底が同じであるため、様々な実践が生まれます。
その実践を互いに学び合うことができるのも、メソッド化した
もう一つの理由です。

GTは乳幼児施設同士が繋がることを目的とした組織です。

今後より繋がりが深くなることを願っています。

ギビングツリー代表 藤森平司(新宿せいが子ども園 園長)

見守る保育 藤森メソッド®

GT GivingTree

見守る保育 藤森メソッド®

今、子どもに必要な保育の「考え方」と「態度」を学ぶ。

子ども同士の関わり・異年齢編 7/10(日) 11(月) 12(火)

子ども主体編 9/4(日) 5(月) 6(火)

チーム保育編 11/13(日) 14(月) 15(火)

保育環境セミナーは各編3日間の日程です

1日目 園見学 + 2日目 講演・実践発表 + 3日目 園見学

※オンライン参加も可能です。 ※オンライン参加の方は、各編でテーマ別懇話会にご参加いただけます。

詳しくは裏面へ！

目次

—利他性—

—たてわりではない異年齢児保育—

—ひとりひとりの特性に応じる—

—チャット GPT に見守る保育を聞いてみた—

—利他性（トマセロ 2006 年）—

皆さ演者が物を床に落としたときに、物を拾ってくれるかどうかを評価する「手が届かない」課題と、物を持っていて手がふさがっているために棚を開けることができない場面で評価する「身体的に支障がある」課題を人の 18 ヶ月児と 3~4 歳のチンパンジーを対象にしてみました。研究の結果、「手の届かない」課題は人もチンパンジーも達成しましたが「身体的に支障がある」課題では、他人の幼児のみが達成しました。ヒトは、言葉をしっかり理解して話すことができない時期から、相手の意図を読み取り、助ける行動をするのです。

仲間集団

社会的ネットワーク理論・集団的社会化理論

HRDY,S の進化理論的議論→ヒト本来の子育ては集団体制、子どもは元来 ALLOPARENTING に順応し得る

OMEF の声明文

乳幼児は、多様な言葉・身体接触、他社とのコミュニケーションのための身体表現を用いながら、他の子どもたちや“大切な他者たち”と一緒に経験すること・遊ぶこと・探求することによって学ぶ

もう一つの学習

人間は、「言葉を話す生き物である」というよりも、「真似をする生き物である」「人間を他のあらゆる動物と根本的に区別するものは、しばしばその栄誉を冠されがちな現ことではなく、模倣する能力である」（スーザン・ブラックモア）

意図を模倣（ゲルゲリー 2002 年）

からは、毛布をかぶっていて手足が使えない状態の大人が頭で卓上のライトをつけている様子と、手足が使える状態の大人が頭で卓上のライトをつけている様子を、14 ヶ月児に見せて、その後どのようにライトをつけるかを調べました。その結果、手足が使える大人がわざわざ頭でライトをつける様子を見せた場合、大半の 14 ヶ月児が大人と同じように頭でライトをつけました。一方で、手足が使えない大人が頭でライトをつける様子を見せた場合には、大半の 14 ヶ月児は頭ではなく手でライトをつけました。これは、14 ヶ月児が他者の状況を推論し、行為の意図を考慮して模倣を行っていることを示します。

また、14ヶ月児は、模倣をする対象者を選びます。自分と異なる言葉を話す非母語話者に比べて、同じ言葉を話す母語話者の行為をより多く模倣します。(ブッテルマン 2013年) これは、ことばが自分の集団への所属意識に関係することを示唆します。また、靴の履き方を知らない知識のない人に比べて、靴の履き方を知っている知識のある行為者から模倣をします。(ズマイ 2010年)

—たてわりではない異年齢児保育—

課題による集団

①履修主義から習得主義へ

履修主義（日本の学校）：同年齢の子を一斉に入学させ、学習内容が定着していなくても決まった時期に卒業させる日本の義務教育。「一律・平等」のもと、教育水準の底上げに効果。

習得主義：目標の達成度に応じて進級を決める。一人一人に応じた学びを実現する土台となる。義務教育は終了段階で一定の能力を身につけることに意義がある。文科省は、現在、習得主義制度への模索を始めている。では、乳幼児教育は？「小学校就学時の具体的な姿」が示され、各年齢ごとの発達過程は目安となる習得主義である。

発育（成長・発達）の原則

1. 発達の特性：発達は、子ども自らの経験をもとにして、周囲の環境に働きかけ、環境との相互作用を通じ、豊かな心情、意欲、態度を身につけ、新たな能力を獲得する過程です。
2. 順序性：発達はどの子どもも同じ順序で発達していきます。ある時期の発達を抜かしてしまったり、逆転してしまうと、その後の発達にひずみが起きてしまいます。
3. 連続性：発達は連続しておきます。それは、階段式に発達していくのではなく、連続していきます。かつて、発達段階と言っていましたが、今では発達過程というようになりまし。それは、必ずしも右肩上がりではなく、行きつ戻りつしながら発達していきます。
4. 速度の多様性：発達の順序は個人によって変わりませんが、速度は個人によって差があります。
5. 敏感期の存在：発達内容のラインは、その内容によって、ピークである敏感期が違ってきます。
6. 相互作用の影響：身体的発達、情緒的発達、知的発達や社会性の発達などの子どもの成長における様々な側面は、相互に関連を有しながら総合的に発達します。

—ひとりひとりの特性に応じる—

①習熟度別保育

→年齢によって保育内容を分けるのではなく、子どもの習熟によって保育を行います。

選択するために一心内知性—

- ・自分を見つめる力
- ・自分の意志を持つ
- ・責任を取る力
- ・表現力（意見、考えを伝える）
- ・実行機能（優先順位を考える）

②違いを知る

子どもたちは、家庭では、異年齢であるきょうだい体験が少なくなり、その後社会に出るまで基本的に同年齢で過ごします。社会に出ると、様々な年齢の人の中で生活することになりますが、違う年齢の人と接することが少なかったため、彼らは何を考え、どのような行動をとるかわからず、違う年齢と一緒に仕事することにストレスを感じてしまいますし、注意されると、めげてしまいます。その結果、人間関係がうまくいかないという理由で、社会からドロップアウトし中には、引きこもったり、鬱になったりする人も出てきます。こんな状況の若者が急増しているのです。小さいうちに、異年齢で過ごすことによって、年齢による行動、考え、ことばの違いを知っていく必要があるのです。

③模倣相手として

人間の特徴として、模倣するということがあります。現在では、新生児から模倣することもわかっています。子どもたちは、他の年齢、特に自分より少し上の年齢の子を見て、真似て、発達に刺激を与えていきます。また、こうして、子ども文化は伝承されていきます。

④教え、教わり、やってあげ、やってもらう

人間は社会を形成して生きてきました。その社会の一員となるための資質を備えることも教育です。それは、自分が出来ること、自分がすべきことを知り、そしてできないことを人に頼むことも必要になってきます。人は、支え合って生きていくために、それぞれ自立していくことが必要になります。人類は、1歳半を過ぎるころから、人へ援助しようとする気持ちが湧いてくると言われています。また、教わることで学ぶと同時に、教えることは能力を定着させるために最も効果的な方法であると言われています。教わる側にも、教える側にも、大きなメリットがあると言われています。

⑤その目的の一つとして、外から見える姿からの刷り込みをなくす

子どもを、男女、しょうがい、年齢、国籍によって判断するのではなく、その子の特性、発達によってその子の課題を見つけていく。

⑥いじめが少ない異年齢児集団

小学校における事例でも、異年齢学年交流が多い学校ほどいじめが少ないという研究がされています。それは、生年月日別のクラスでは、そこに優劣や個人差が際立ち、それがいじめの対象になりやすいためだと思われます。異年齢児集団では、年齢による差よりも、個人差を重視し、それを多様性として認めやすくなります。

⑦年長児にとっての意味

- ・年長児は年少児に教えてあげることで、自分の能力を定着させる
- ・小さい子のお手本となることで、自信をつけることができる
- ・思いやり、援助の気持ち、寛容さの育ち
- ・年齢の違う子供に対して自分の言い分を主張する力
- ・自分をお手本ととらえて、自分の行動を振り返ってみる力
- ・違いについて興味を持つ
- ・異年齢の子どもとの葛藤の中で自分の立場を守ることができること

- ・異なる要望や行動様式をお互いに調整しなければならないという基本姿勢を学ぶ
- ・異年齢の子どもの欲求や興味を知り、共感すること

認知的なものを子どもたちに伝達する場合

→伝達される側の理解力は必ずしも年齢によって区別されるわけではない。

おおむね発達に近いが多いので、一斉に決めたことをやらせる場合

→あくまでも概ねであり、また、4月生まれの子どもと3月生まれの子どもは年齢別ではほぼ1年の差があるにもかかわらず、3月生まれの子どもと次の学年の4月生まれの子どもはほぼ1ヶ月の差しかない。

年長さんには年長さんとしてやるべきことがあるはず

保育集団を、年齢によって集めるのではなく、やる内容の課題によって集めるべきであり、その集団が年齢別になるか否かは、結果です。

小学校への移行の場合

→移行による保育は、まず、個人際に対してのケアが大切であり、一斉に行動する移行の保育には、それほど長い期間が必要ではない。また、今後就学年齢の弾力化が行われた時には、必要がなくなる。

発達を保護者に理解してもらう場合

→個人差を保証し、保護者には他児との比較ではなく、わが子のありのままの姿を理解してもらうことが必要

—チャット GPT に見守る保育を聞いてみた—

●藤森平司が提案する見守る保育とは

藤森平司氏が提案する「見守る保育」とは、保育者が子どもたちを徹底的に観察し、その個性や発達段階、興味関心に合わせて適切な支援を行う保育方法です。従来の保育では、子どもたちに同じようなプログラムを提供している場合がありますが、見守る保育では、子どもたち一人ひとりが持つ個性や特性を把握し、その子にとって最適な支援を行うことが重視されます。具体的には、子どもたちの行動や表情、コミュニケーションの仕方などを観察し、その子の興味や関心を引き出すような遊びやプログラムを提供している場合がありますが、見守る保育では、子どもたち一人ひとりが持つ個性や特性を把握し、その子にとって最適な支援を行うことが重視されます。具体的には、子どもたちの行動や表情、コミュニケーションの仕方などを観察し、その子の興味や関心を引き出すような遊びやプログラムを提供することが挙げられます。このように、見守る保育は、子どもの自発性を尊重し、個性に合わせた支援を行うことで、子どもたちの成長や発達を促進することを目的としています。

異年齢児保育もその観点から異年齢の言い方をしていますが、異年齢が先にあるのではなく先に活動があり、その活動の意図によって行われることで年齢が結果的に異年齢になる可能性が高いということです。このところがよく言われる異年齢と違うので、実践をするときに気を付けてもらえたらと思います。最初の話はこれで終わります、ありがとうございました。

本稿は、2023年7月11日に開催した「第57回保育環境セミナー」の基調講演の内容をまとめたものです。

(文責/奥山卓矢)